

「会員短信 19」

「私の生き甲斐」 田村米生

私は昨年、生命保険の契約ができない年齢になりました。昭和八年生まれの自称元気な後期高齢者です。家族からは、まだ運転免許証の自主返納は勧められていません。家族にとって貴重な足ですから。

現在の私の生き甲斐は、俳句と卓球です。俳句は、二つの俳句愛好会の世話人を引き受け、結社「圓」の同人と、滑稽俳句協会の会員として、それぞれに毎月駄句を投句しております。俳句は、雨の日も風の日も、暑い日、寒い日もそれなりに楽しめます。卓球も天候に左右されずに楽しめます。

私の所属する卓球部は、津市老人会連合会卓球部「すばる」と称し、会員は六十歳以上の男女二百名余りの大所帯です。練習会場は、かつて私が勤めていた銀行の体育館です。卓球台は二十台ですが、全員が一度に使えません。その為、金曜日と日曜日の二組に分けて、それぞれ三時間ずつ楽しんでおります。

私は、金曜日組の初心者のコーチとしてラケットを握っています。初心者は毎年十名ほどおり、一年間は初心者コースで腕を磨きます。体育館には冷暖房はありませんが、冬でも半袖半パンツで汗まみれです。

スウィングは踊りの手振り 齢不詳
はずれ球渡す手に触れあたたかし
投げ上げのサーブは蝶の舞ふごとし
短パンの太腿まぶし館暑し
息の合ふラリー 囃され汗しとど